

2回戦

11年新人戦
8月27日

守備の乱れから5失点



下川はチーム唯一の複数安打を放った



失点し、悔しそうな表情を浮かべる白井【右】
三振に倒れ、下を向く砂川【左】



14三振と奮わず… 東洋大5-0駒大 6安打完封負け

東洋大	000	050	000	5
駒大	000	000	000	0

【駒大】	打安点
⑦福山	400
④砂川	410
⑥下川	420
⑨江越	310
⑤3柳	210
3宇賀神	110
DH横嶋	300
HD山田	100
③加藤大	200
5江口	100
②木下	300
⑧藤原	100
PH受川	100
8西村凌	100
計	3160

▽二塁打=下川、砂川

	回	打安責
木村	5	1830
●白井	2/3	531
村上	1/3	300
高橋涼	2	810
荻	1	300

新人戦の舞台でも、春の東都の覇者・東洋大の強さは際立っていた。「萎縮したんじゃないか。若さが出た」と森岡正樹学生コーチ(法4)。その言葉の裏には、野手の失策、捕逸といった守りのミスがあった。先発・木村大希(営1)は連投の疲れを全く見

2回戦では、第1シードの東洋大と決勝進出をかけた。6回、継投の白井慶一(法1)は、2死から3連打で先制された。さらに満塁の危機で失策、捕逸が重なり5失点。打線は相手投手の前に6安打14三振、完封負けを喫した。

ず、5回まで相手打線を翻弄。無失点で切り抜けるが、6回、代わった白井が2死から3連打を浴び先制を許した。なおも満塁。迎えた打者を打ち取ったかに見えたが、「(三塁は)まだ慣れない」という柳原悟(法2)が失策。その後も捕逸が重なるなど守備が乱れ、悪い流れがとまらない。この一回一挙5点を献上した。

打線はその裏、砂川哲平(法1)が右中間二塁打を放つと盗塁で三塁を陥れた。2死三塁と好機を演出したが続く下川和弥(市1)が「インコースの真つすぐ」を見逃しの三振。「打てるボールをファ

ールしてしまった。(三振は)僕の技量だと思う」と下を向いた。「三振14では練習するしかない」と森岡学生コーチも苦笑い。守りのミスに始まり、投打が噛み合わなかった。春季リーグに続き、新人戦でも東洋大に敗れた駒大。この借りを返す場は、秋季リーグだ。

写真 野木聡介、
服部萌香
文 水出綾香